つなごちゃんだより

2021年度
8月号

〒177-0045 練馬区石神井台3丁目31-4　　小規模保育園手をつなご石神井台
TEL　03（6767）1204

保育園というのはとても素敵なところです。七夕には、近所の方がきれいな笹竹を持ってきて下さいました。また、散歩中に畑を覗いていたら、いんげんと大根をいただいたこともあります。うさぎ組でいんげんをむいて中にお豆があるのを見たり（「クシャイ」と言っていました）泥だらけの大根を洗って「マッシロニ　ナッタ！」と大喜びしたり。ある日は、ご高齢の方が「うちのじゃない手紙が来たんだけどどうしたらいいかしら」と郵便物を持って相談にいらしたこともあります。ここに保育園があるということを近隣の皆様に親しく思っていただける事は、本当に幸せな事です。子どもたちを「かわいい」と思ってくださる皆様の豊かなお心に感謝しながら、これからも「手をつなご」という思いを大切にしていきます

園長　浦山恵美子

いただいたインゲンをむいています。

今月のねらい

★０歳児ひよこ組★

・室温や湿度に留意し、体調の変化に配慮しながら夏を快適に過ごせるようにしていく。

・様々な素材に触れて感触に親しむ。

★1 歳児りす組★

・水分補給・休息を十分に取れるようにし、暑い日も快適に過ごせるようにする。

・保育者と一緒に水や粘土などの素材に触れ、夏の遊びを楽しむ。

★2 歳児うさぎ組★

・一人ひとりの健康状態に合わせた休養を適切に取れるようにするとともに、衛生的に過ごせるように配慮していく。

・様々な素材を使った室内遊びを楽しむ。

・湯水遊びなど夏ならではの遊びを楽しむ。

今月の予定

８日（日）　山の日
９日（月）　振替休日
１７日（火）　避難訓練
１８日（水）　身体計測

オリンピックのため、祝日が変更されています

★★　ひよこ組保育室です　★★

絵本ラックと玩具棚のコーナー

牛乳パックで作ったお山とマット、マットのお山もあります。時にはマットでまったりしていることも・・・。

オムツ替えコーナー

他の人からの視線がさえぎられるように設定しています。発達に合わせて寝て交換したり小さな椅子に座ってズボンを履いています。

こちらのQRコードから保育園のページ・おたよりをご覧になれます。

小規模保育園手をつなご石神井台は、「特定非営利活動法人手をつなご」が運営を行っています。

子どもの様子

★　今月は絵本と子ども達の様子です　★

かがくいひろし作　ブロンズ新社

★ひよこ組

・絵本を読み始めると部屋の向こうで遊んでいた子も気が付いて保育者の前にちょこんと座り見ています。”だるまさんが“の絵本が大好きなひよこさん。ページをめくる度に３人で笑い合っています。

まつおかたつひで作絵
ポプラ社

★りす組

・りす組はみんな絵本が大好きで、読みだすとみんなが集まります。“ぴょーん”の絵本では「かえるがぴょーん」と読むとみんなで跳んだり「かたつむりがダメか」のページでは、床に寝転がり全身で絵本を楽しんでいます。高月齢の子は“おふろにいれて”が好きでお絵描きの時におばけを描く事がブームになっています。

せなけいこ作絵　ポプラ社

★うさぎ組

・“３匹のヤギのがらがらどん”の絵本を楽しみにしています。橋を渡る時にトロルが出てくるところがドキドキ!!　分かっていても食い入るように絵を見つめています。先日は一本橋を並べて、保育者がトロルのように、「誰だぁ、この橋をがたごとさせるのは」と言うと「がらがらどんごっこ」の様になりました。「がたごとがたごと」と言って渡っていました。

マーシャ・ブラウン絵　せたていじ訳
福音館書店

とりっことひとりじめ

　すっかり忘れていましたが、自作の「子育てかるた」が出てきました。
その１枚。「相手が悪いと思いつつにっこり笑ってわが子を叱る」子どもが小さいころ、お友だちと遊ぶとよくこういうことがありました。保育士なので子育ては大丈夫かと思ったのは、生まれる前の幻でした。

　２歳児は独占欲が強くなります。でもそれは「貸したくない」という意地悪な気持ちではありません。「ジブンノ」という心が大きく育ってきているからなのです。「ダメー」というわが子に悩んだり、かと思うと相手に取られてばかりいるわが子に悩んだり……。でも、自分が使いたい気持ちを大切にしてもらうと、やがて〝自分から“（いっぱい持っているものの中から）１つ貸してくれるようになります。そして貸してあげられた自分を誇らしそうにしたりします。
自分が<u>使いたい気持ち</u>を飛び越えて、お友だちに<u>貸してあげられる気持ち</u>は育ちません。

　持っているものをお友だちに取られそうになって「ダメー！」と引っ張り返している場面では、相手に「ごめんね。今遊んでいるから貸してあげられないんだって」とわが子の思いを代弁してあげるとよいと思います。反対にわが子がお友だちの物を取ろうとしていたら、さっと止めて（お互い怪我がないように）「〇〇くんも使いたかったね。あの赤い車かっこいいもんね」と使いたい気持ちを代弁してあげれば良いと思います。子どもの気持ちを大切にするために、お友だちの物までとっていいわけではありません。「使いたい」「欲しい」という気持ちに共感してあげればいいのです。
私たちが「２歳児ってこういう時だよね」と認めあえる仲間になれたらいいなあと思います。

浦山　恵美子